

2 艇体と上構

そのフネがどういったものかを把握するには、まず、さまざまな角度から、さまざまな見方をしてみてください。方法は、決してひとつではありません。

2-a 数値の意味

カタログなどの資料には、さまざま数値が記されています。全長、全幅、質量などは、そのフネがどんなものかを知る重要な手がかりです。ただ、実際には個々のフネごとに、あるいは資料ごとに、その表記の基準が微妙に異なっている可能性があったりもします。

■全長

全長は、通常、標準状態のそのフネの長さを示したものです。国産艇の多くは、船尾のスィムプラットフォームや船首のバルピットが標準ならば、ほとんどはそれを含む長さを全長としますが、輸入艇の場合はケース・バイ・ケースです。フネによっては、記された数値が何を含んで何を含まないか、といった条件を記してあったりします。

■全幅

フネの最大幅です。もちろん、フネの平面形状によっては、キャビン部分や船尾コクピットがそれよりもずっと狭くなっているケースがあるわけです。

■吃水

静止状態における、水面からフネの最深部までの深さのことですが、船外機仕様やスターンドライブ仕様では、当然、それらの揚降により吃水が変わります。

また、小型艇や軽量艇では、わずかな積荷の違いによって容易に変化するものであるため、吃水値をあえてスペックとして記していないフネもあります。

■全深さ

これは最近の輸入艇では見られない項目で、国産艇だけしか記していません。

通常、ミジップにおけるデッキ上面からキールまでの深さをいいます。一般のモーターボートユーザーにとっては、あまり関係のない数値でしょう。

■質量(排水量)

フネの質量は、艇体のみを記したもの、艇体にエンジンを搭載した状態を記したもの、さらに燃料や水の一部または全部を加えたもの、一般的な使用状態を想定したもの、などがあります。

これは、注釈などで記されていることを確認するしかありませんが、一般に、船外機仕様は艇体のみを記載したものが多く、その他はケース・バイ・ケース、というところです。

■燃料/清水搭載量

容量、タンク容量など、書き方はいろいろです。携行燃料タンクを使用するフネでは、搭載可能な携行燃料タンクの数を示す場合もあります。

フネによっては、燃料や清水のほかに、温水器の容量や汚水のホールディング・タンク容量を記しています。

■エンジン

船内機やスターンドライブでは、最低限、標準搭載エンジンは記されているはずです。また、オプションパワーのあるフネではそれらが記されることもあるでしょう。

船外機仕様でも、艇体と合わせてパッケージされる標準エンジンのようなものがあれば記されるのが普通ですが、特にそういったものがない場合には、最大搭載出力や推奨する搭載エンジンの出力のみ記されていることもあります。

■定員

これは日本国内の船検にかかわることですから、輸入艇の場合は船検時に決まります。また、国産艇でも、取得する航行区域によって変わる場合があります。

■航行区域

これも輸入艇では船検時に決まります。国産艇の場合、通常は標準状態で取得可能な最大の航行区域が記されますが、一部を改造することで、より広い航行区域を取得できるフネもあります。

ハル各部の寸法

●全長(1)

フネによっては「ハル長」などという表現になっている部分の寸法です。船首尾の付属物などを一切含まない、純粋な艇体のみを示します。

欧米のフネの中には、船首のバルピットや船尾のスィムプラットフォームが標準装備になっていても、こちらの値を「全長」とするところが少なくありません。

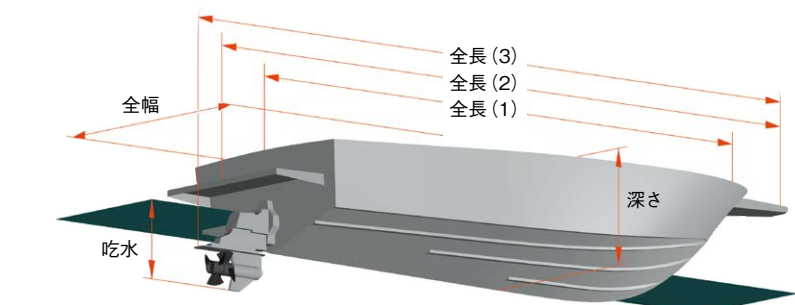
●全長(2)

標準的に備わる付属物を含めたものを「全長」として示すケースはこちらです。図では、船首のバルピットと船尾のスィムプラットフォームの両方が含まれていますが、もちろん、この片方だけを含むケースもあります。

付属物が標準であるか否かにかかわらず、「全長(1)」を「全長」とし、こちらに対して「○」を含む」といったかたちで別に示すケースがあります。

●全長(3)

マリナーなどで、その保管料算出などに際して「実測全長」を用いる場合の全長。船外機やスターンドライブユニットなど、一



般に「フネの全長」には含まれない、あらゆる突起物を含みます。

本来、カタログなどにはあまり記されませんが、最近は少数ながら掲載する国産艇も見られます。

●全幅

そのフネの最大幅を示します。一般のプレジャーボートは、ミジップ付近か、それよりも船首側で最大幅となりますが、これはフネの形状によるので、一概にはいえません。

●吃水

多くは図のように、そのフネの水中の最深

部を示しますが、まれにハルの最深部が示されるケースもないわけではありません。また、船外機やスターンドライブではその揚降によって違いますし、積荷でも変化します。

●深さ

「全深さ」などとも記されます。現在は、国産艇のカタログでしか見られません。一般にはハルの上端(デッキ面)からキールまでの深さですが、フネの形状や構造によって計測する部分が微妙に変わるため、一見ただけではそのフネのどの深さを測っているか分かりにくいケースもあります。